

建設委員会 質問

12月17日 盛土による災害防止のための総点検について
 ・点検の進捗状況と完了見込みについて
 ・国に報告した13箇所に対する是正指導について
 ・来年出水期までの点検完了と是正指導が必要な箇所の適切な対応について要望
 ・危険な盛土が見つかった場合の結果公表・県民周知に向けた検討について要望

委員会の様子はコチラ

30:03~35:13



2月14日 港湾特別事業の経営状況について
 ・海田大橋の利用料金を値下げした理由について
 ・値下げ後の交通量の推移と周辺道路への影響について
 ・値下げによる物流活性化への効果について
 ・使用料収入減に伴う維持管理費等への影響について
 ・港湾特別整備事業費特別会計の全体収支改善に向けた分析・検証について



委員会の様子はコチラ

50:17~57:58



3月3日 令和4年度工業用水道事業会計補正予算について
 ・沼田川工業用水道の料金改正について、値上げについて
 ・今後の工業用水道事業会計の収支の見通しについて
 ・今後の経営改善策について（日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区 閉鎖による）
 ・令和5年4月を目処に改善策の検討を進める件について
 ・早期改善策の提示を要望（一部の報道により、工業用水道と水道水を県民が混同）

委員会の様子はコチラ

10:45~19:00



要望⇒進んでいます！！

○二級河川堺川・内神川 河川改修事業
 浸水被害が多発しているため、地下水路を設置中
 ⇒分水路の工事に着手



※呉市HPより入手

○下蒲刈町三ノ瀬地区 高潮対策事業
 ⇒3月にかさ上げについて見直し

料金別納
郵便

県政報告

2022 Vol.7

郵便区内特別

自由民主党広島県議会大志会
 広島県議会議員《呉市選挙区》

51歳

坪川たつひろ

建設委員、国際平和・観光振興対策特別委員

連絡先

坪川竜大事務所 〒737-2602 広島県呉市川尻町森2-10-1
 TEL(0823)87-2123/FAX(0823)87-6124

自由民主党広島県議会大志会
 〒730-8509 広島県広島市中区基町10-52 TEL(082)513-4664/FAX(082)223-2034



Activity 坪川たつひろの活動



新成人を祝う会 式典



中畑川河川改修事業説明会



若い世代の方々と意見交換

撮影の為、マスクをはずしています

プロフィール
 昭和46年 呉市川尻町生まれ
 祖父は坪川蔵之助（元川尻町長）
 父は坪川禮巳（元広島県議会議員、
 清水ヶ丘学園理事長）
 平成元年 広島県立広高等学校卒業（40期）
 平成5年 明治大学理工学部工業化学科卒業
 平成5年 ライオン株式会社研究開発本部入社
 平成9年 株式会社 坪川毛筆刷毛製作所入社
 平成21年 呉広域商工会青年部会長
 平成25年 呉法人会青年部会長
 平成31年 広島県議会議員 初当選
 令和元年 常任委員会 建設委員
 特別委員会 地域魅力向上・健康を支える
 社会基盤強化対策特別委員
 令和2年 常任委員会 総務委員
 特別委員会 決算特別委員
 令和3年 常任委員会 建設委員
 特別委員会 国際平和・観光振興対策特別委員

現在在...
 公益財団法人呉法人会 監事
 呉間税会 豊田支部長
 呉広域商工会 監事
 川尻毛筆事業協同組合 理事長
 地方創生セミナー 副委員長
 広島県土地家屋調査士会 顧問
 日中友好議員連盟
 日華友好議員連盟
 ユニタール支援議員連盟
 ASEAN研究会
 水産振興議員連盟
 県中央政策研究会
 商工会地域活性化議員連盟
 農林業活性化議員連盟
 果樹園芸振興議員連盟

SNSで日々の活動を配信中!!

facebook

坪川竜大



Instagram

坪川竜大



ご挨拶

はじめに、未知のコロナウイルス感染症と戦っている方々へ感謝・御礼を申し上げます。また、罹患、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表します。

広島県は感染が再拡大し、今年に入り、まん延防止等重点措置の適用がされましたが、3月に解除されました。早期にピークアウトすることを強く、願っています。さて、4月、安浦町が、昨年の音戸町、川尻町に続き、「過疎地域」に指定される見込みで、合併8町はすべて過疎地域に指定されることとなります。

令和2年国勢調査では呉市の人口は前回と比較して、人口減少数は県内市町トップです。

人口減少対策・公共交通インフラ整備を含め、地方維持の議論は待たなしと考えています。

そこで、日本が豊かになるには、地方への投資が必要であり、東京一極集中は日本の最大の問題だと思います。よって地域を豊かにするには多様なニーズに応える支援策が必要と考えています。

2月定例会の予算特別委員会において、「持続可能な社会」、「県経済の成長」の実現につながるための来年度予算の施策、事業案について質問をしました。その様子が、You Tubeにアップされ、視聴可能ですのでご覧いただければ幸いです。

今年の寅年は、新しい芽が成長し、新しい日常が始まる年になることを祈念いたしております。

厳しい時代ではありますが、引き続き、常に県民のことを考え、高い志をもって是々非々で政治活動を行っていきたくと思います。

敬具
 令和4年4月吉日



【テレビ中継】 予算特別委員会の様子

ご意見等ございましたらご連絡いただければ幸いです。また、県政報告の受取ご希望の方をご紹介ください。

3月9日

スマホでピッ



1日目の様子は<https://www.youtube.com/watch?v=sZd8eYVwM0s>

1 災害復旧事業・公共事業の必要性について

1) 災害復旧事業の進捗状況について

坪川) 県土強靱化を推進する中、平成30年7月豪雨災害に係る災害復旧事業の進捗状況についての認識と来年度の取組について。

知事) 平成30年7月豪雨により被災した公共土木施設の災害復旧事業は、ほぼ完成。

今年度末までの完成は全体2,550箇所の約9割に留まる見込み。完成していない箇所は、建設事業者の確保に向けた取組や、自らの創意工夫により工期短縮を行った建設事業者に対してインセンティブを付与する取組など、来年度中の完成に向けて全力で取り組む。

2) 公共事業予算の確保について

坪川) 災害時の復旧事業は概ね国費で賄われるが、昨今の災害の発生状況を見ると、平時からの備えとしての事前防災を進めるため、県の公共土木事業予算、特に防災・減災関連の予算を十分に確保しておく必要があると考える。

知事) 計画的な防災施設の整備による事前防災を着実に進めることは重要であり、「防災・減災対策の充実・強化」に重点的に取り組む。

また、計画的にプランを推進するため策定した道路、河川などの事業別整備計画において、令和7年度までの5年間の投資予定額を示し、前計画と比較して事業費ベースで約800億円の増額。その中でも、防災・減災対策に重点的に資源を配分。

来年度当初予算は、有利な財源を最大限に活用しながら、計画的に整備を進めるために必要な予算を措置。

国に対して、安定的かつ持続的な公共事業費の総額確保を働きかけるなど、必要な事業量の確保に努める。

【坪川要望】事前防災が重要であり、公共事業予算の確保しかない

2 地方創生について

1) 現状を踏まえたネウボラの取組について

坪川) 本県では、妊娠期からの切れ目ない子育て支援として、ひろしま版ネウボラの取組を進めている。

1月の常任委員会で、乳児家庭全戸訪問などのタイミングで全ての子育て家庭の状況を把握できている、との報告がありましたが、安心して妊娠・出産・子育てできる環境の構築に向けては、まだまだ不安を抱えている方も多いのではないかと感じています。

そういった方は地域外からの移住者に多いのではないかと感じています。

移住者にとっても、より良い仕組みとなるようなネウボラの取組について。

ネウボラとは？

「ひろしま版ネウボラ」は、市町のネウボラ拠点と地域の関係機関が連携して、全ての子育て家庭を見守る仕組み。医療機関受診の際や、幼稚園・保育所への来所時など、日常の様々なタイミングを捉えて、子育て家庭の状況を把握し、必要な支援を行うこと

知事) ネウボラの取組により、本県では、乳児健診などにおきまして100パーセントの状況把握を達成。移住して来られた方も含めて、地域に暮らす全ての子育て家庭の不安を取り除いて孤立させない仕組みが整いつつある。

一方で、市町のネウボラ拠点と医療機関や幼稚園・保育所などとの連携では、リスク情報の共有が行われた割合が15.8パーセント。

ネウボラの取組が、子育て家庭の安心感の醸成に寄与しているかを検証する取組も始めた。検証結果を踏まえた取組の改善・強化を繰り返しながら、「ひろしま版ネウボラ」を県内全ての

令和4年 2月定例会・予算特別委員会に登壇

— 来年度予算案について坪川が問う!! —

〈すべての質問が委員長報告に取り上げられました〉

市町に展開し、移住して来られた方も含めて、地域に暮らす全ての子育て家庭にネウボラの成果を実感していただけるよう、取り組む。

【坪川要望】移住者にとっても魅力的な子育て支援制度になれば人口減少対策につながる

2) 中山間地域の交通インフラ整備について

坪川) 広島型Maasなど、中山間地域の公共交通を維持していくためのソフト事業に取り組もうとしているが、それらが機能するため、まずは道路をはじめとするハードを整えていくことが必要ではないか。

中山間地域の公共交通を持続可能なものとしていくため、必要なハードをどのように整備していくのか。

土木建築局長) 中山間地域の交通インフラ整備は、
・都市部との地域間の円滑な移動を可能とする道路や地域拠点と集落等を結ぶ道路の整備

・バス路線における離合困難な1車線区間の道路拡幅

・狭隘区間における待避所設置などの局所的な改良

などを実施し、道路交通の安全確保や発災時の交通遮断を防ぐため、法面対策や橋梁の耐震化など防災機能の強化にも取組中。

必要な予算を確保しながら、関係市町と連携して中山間地域の交通インフラ整備を着実に推進する。

【坪川要望】まずはハードから。地方維持の議論は待たなし

3 県立高校の再編整備について

坪川) 1学年1学級の小規模高等学校の教育環境を守っていくため、どのような取組を考えているのか。

教育長) 1学年1学級規模校は、学校関係者や地域の代表者等で構成する「学校活性化地域協議会」を設置し、生徒数の増加や学校の活性化に向けた取組を進めている。

・学校行事や部活動の地元中学校との共同実施

・教員相互乗り入れによる授業の実施

・地元中学校へ出向いての個別の進路相談

など、特色ある取組が行われている。

今年度から、
・生徒に、質の高い学びの機会を提供するための遠隔教育システムの導入

・地元中学校の生徒の進路希望や学校の特色を踏まえた指導・助言

などに取り組んでいる。

各学校において、活力ある教育活動が展開できるよう、各学校の課題や実情等を丁寧に把握しながら、必要な支援を行う。

【坪川要望】小規模校であっても教育環境を守るのが使命

2) 再編整備の進め方について

坪川) 再編整備のプロセスをどのように検討し、来年度は具体的にどのような取組を考えているのか。

教育長) 再編整備のプロセスの在り方は、「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」の次期計画を策定していく中で、検討する。

・「学びの変革」の定着状況

・現行計画における成果及び課題等の整理

・中長期的な県内児童生徒数及び学級数の推計

などの調査・分析中。今後、学校・学科の特色づくりや適正な配置及び規模の考え方など、様々な観点から検討する。

なお、来年度以降の再編整備は、今後も中長期的に中学校在籍者数の減少が見込まれる中で、全県的な視野に立った取組を

進める。
【坪川要望】時間的猶予つまり丁寧な説明が欠けている

3月11日 スマホでピッ



2日目の様子は<https://www.youtube.com/watch?v=C8i76AMPvZU>

4 中小企業の支援について

1) 中小企業・小規模事業者の経営状況について

坪川) 県内の中小企業・小規模事業者の現在の経営状況をどのように認識しているのか。

商工労働局長) 令和4年1月末時点の調査結果によると、新型コロナウイルスのオミクロン株による感染の急拡大により、約6割の企業が、感染拡大前と比べて、売上高が減少し、とりわけ、宿泊業や飲食業は、外出自粛や飲食店に対する営業時間短縮の要請などにより、厳しい状況。

資金繰りは、7割以上の企業が、当面対応できている状況にあるものの、今後、借入れが発生する時期については、「今現在」または「3か月」と回答した割合が増加。

また、今後の経営方針につきましては、

・販路の拡大・強化に37パーセント

・新たな設備投資に20パーセント

・業態転換を含む新規事業展開に14パーセントの企業が実施又は検討している

と回答。
【坪川要望】疲弊はピーク、思っている以上に深刻

2) 財政支援について

坪川) 県内企業の99%以上を構成する中小企業、小規模事業者に対する県独自の財政出動や伴走型の支援メニューの拡充が必要だと考える。

商工労働局長) 中小企業、小規模事業者に対する支援は、

・商工会等の経営指導員による相談対応や経営革新に向けた伴走型支援

・県費預託融資制度による経営安定や事業活動の支援などを行っている。

さらに、アフターコロナを見据え、中小企業、小規模事業者の新事業展開などの経営革新を促進する観点から2月補正予算において新事業展開、人材育成、販路開拓などの経営革新を支援する、県独自の新たな補助制度を創設し、商工会等と連携して、伴走型の支援を強化する。

加えて、県費預託融資制度は、経営の安定に支障が生じている企業を対象とした緊急対応融資の融資枠を拡充するとともに、一般資金に比べて利率の低い新成長分野支援資金の融資対象にゲノム解析・編集関連事業とカーボンリサイクル関連事業を新たに追加。

国の中小企業活性化パッケージなどの制度や、財源も最大限に活用しながら、県内の中小企業、小規模事業者の前向きな取組を後押しする支援策を講じてまいりたい。

【坪川要望】中小企業が直面している課題を分野別に分析し、徹底した財政支援を

5 観光産業への支援について

坪川) スタートアップ時や事業が軌道に乗るまでの人材を含めた支援など、新たな観光産業として定着させるための積極的な後押しが必要だと思う。

商工労働局長) 県内各地域に存在する様々な観光資源を生か

し、地域団体や観光関連事業者等の協働による新たな観光プロダクトの開発をより一層促していくため、今年度から、観光プロダクト開発促進補助金による支援に加え、観光以外の異業種を含む幅広い事業者によるネットワークの強化などを目的としたプラットフォームを創設。

このプラットフォームは、

・魅力ある観光プロダクトを開発するためのポイントなどを学べるセミナーや事業者間の連携を促進するための交流会の開催

・マーケティングの知見を有するアドバイザーからの助言

・県内各地域でのプロダクト開発をけん引していくエリアマネージャーの配置

などを実施しており、現在300を超える事業者が参画し、新たな観光プロダクト開発に取り組中。

来年度からは、このプラットフォームにおいて、

・テーマ別のセミナーや交流会の定期開催などによる異業種を含む事業者間連携のさらなる促進

・複数分野の専門家の配置などによる事業者へのより細やかなアドバイスの提供

などにも取り組む、こうした取組などにより、新たな観光産業の定着に向け積極的に支援していきたい。

【坪川要望】既存事業のブッシュアップだけでなく、魅力づくりに向けたスタートアップ時からの伴走支援を



6 瀬戸内の地魚の安定供給体制の構築について

(1) 漁場環境の整備について

坪川) 本県の海面漁業は、大変厳しい状況にあるが、漁場環境整備についてどのように取り組んでいくのか。

農林水産局長) 本県の水産資源の減少は、資源の再生産を上回る「過剰な漁獲」、魚の棲家となる「環境の変化」、栄養塩の低下による「魚のエサ不足」、が要因と考えている。

このため、「過剰な漁獲」への対策として、種苗放流や資源管理を継続するとともに、「環境変化」への対策については、計画的に藻場・干潟の造成を進めるほか、本年度から、海底耕うんに取り組む、底質改善やエサとなる生物の増加などの効果検証を開始。

専門家の意見も参考に国や他県、関係機関等とも連携してより効果の高い資源増大対策を進める。

【坪川要望】「きれいな海」から「豊かな海」へ持続的な沿岸漁業の構築へ

2) 漁業経営体の安定経営・人材確保について

坪川) G1登録された「豊島タチウオ」や呉市でブランド化を進めている「オコゼ」などの瀬戸内の地魚、漁獲量の増加や商品価値の向上を図ることで、漁業者が自立するための経営安定支援や人材不足の改善につなげていく必要があると考えるが、どのように取り組んでいくのか。

農林水産局長) 漁業者の経営安定については、漁場環境整備による水産資源の回復とともに、ブランド化による付加価値の向上やスマート水産業の推進にも取り組む必要がある。

来年度から新たに開始する「瀬戸内地魚のブランド化推進事業」では、漁業者や市場、飲食関係者等と連携して多様な旬の地魚の付加価値を高め、県内市町自慢の魚のPR活動とも連動しながら、県内外の観光客などへ消費拡大につなげたい。

また、スマート水産業の推進は、ICTを活用した漁獲技術の向上や、漁獲情報のデジタル化による販売の効率化を図ること

で、収益性の高い漁業経営を目指す。

こうした取組を通じて、若者をはじめとする幅広い人材を呼び込み、持続可能な水産業を確立する。

【坪川要望】まずは、ブランド価値の向上を